

平成29年7月5～6日に発生した 九州北部地方の大雨への対応状況について

九州北部地方の大雨について（概況）

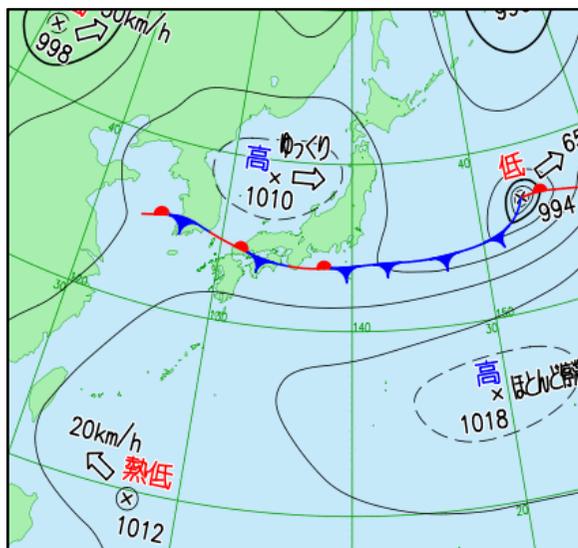
【7月5日から6日の概況】

梅雨前線が7月5日から6日にかけて西日本に停滞し、この影響で、九州北部地方を中心に大雨となった。

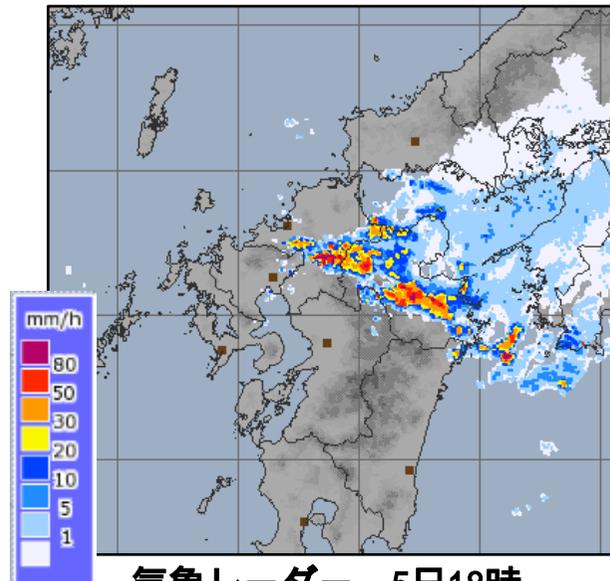
九州北部地方では、対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込み、線状降水帯が形成された影響で記録的な大雨となった。これにより、5日17時51分に福岡県、19時55分に大分県に、大雨特別警報を発表した。

福岡県及び大分県では、5日昼頃から夜遅くにかけて猛烈な雨が降り続き、福岡県朝倉市で129.5ミリの1時間降水量を観測したほか、最大24時間降水量は福岡県朝倉市で545.5ミリ、大分県日田市で370.0ミリとなって平年の7月の降水量を超えるなど、統計開始以来の1位の値を更新した。

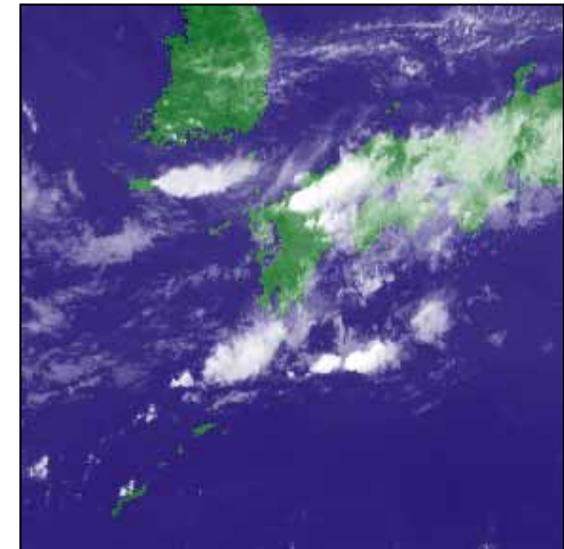
7月5日 福岡県・大分県に大雨特別警報を発表した頃の状況



実況天気図 5日18時

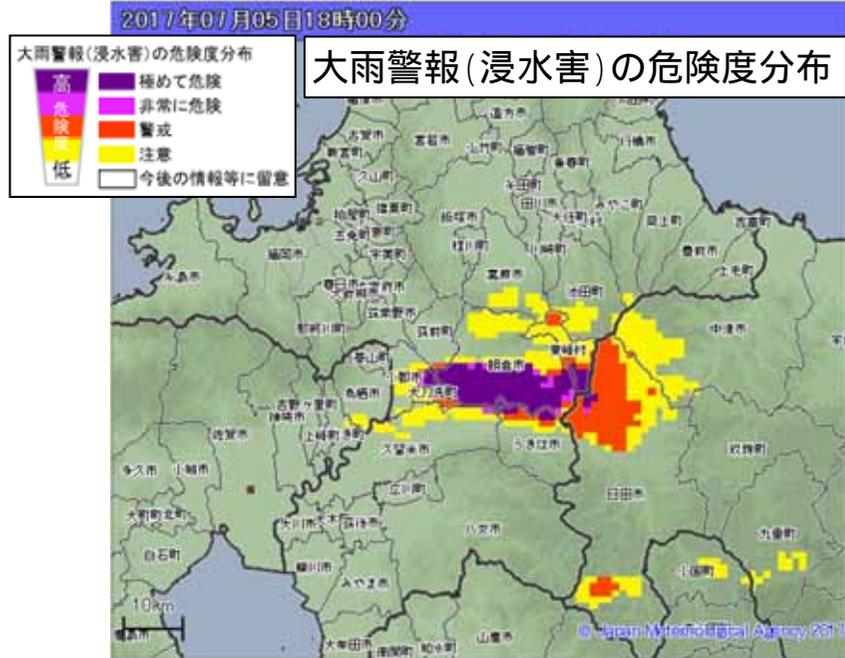
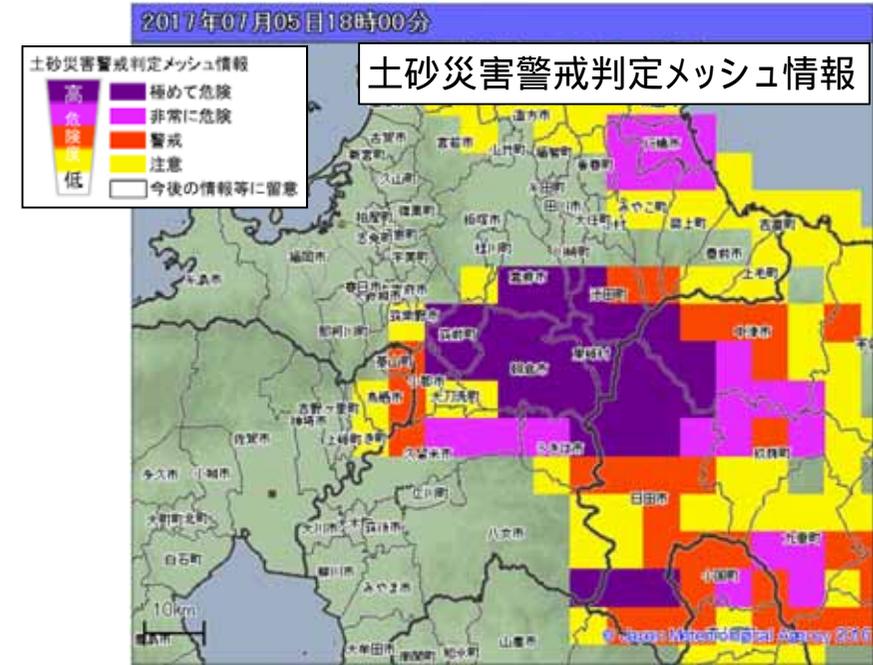
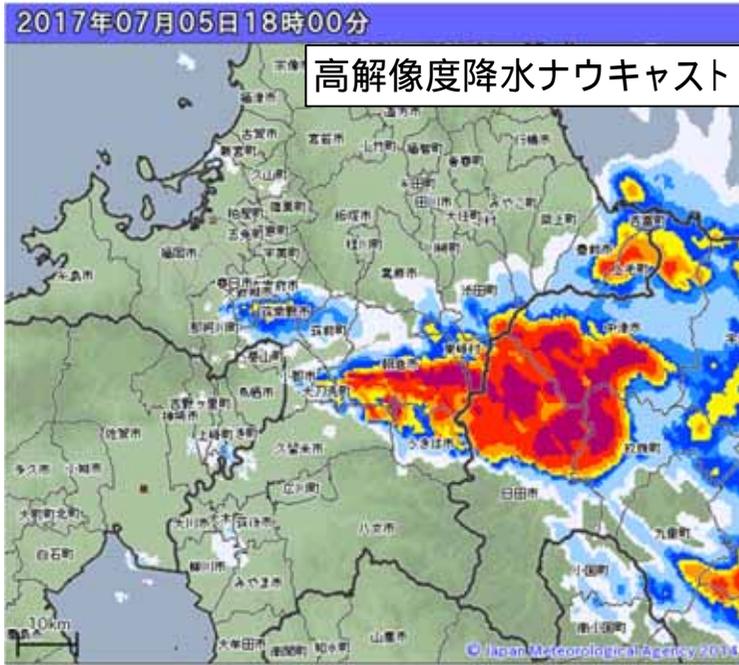


気象レーダー 5日18時



気象衛星画像 5日18時

降水強度及び危険度分布の状況（福岡県に大雨特別警報発表時）



大雨時における地元気象台の対応状況

福岡管区気象台及び大分地方気象台では、大雨特別警報発表前から、気象情報や大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報等を段階的に発表し、警戒を呼びかけ。

これに加え、自治体に対しては「予報官コメント」による気象解説を随時に行うとともに、福岡県朝倉市をはじめ記録的な大雨となった市町村に対しては、大雨に対する厳重な警戒を、直接電話で強く呼びかけ。

福岡管区気象台の対応

【予報官コメント】

- 7月5日～6日に計11回発信、防災気象情報の発表状況や今後の気象の見通し等を解説

【市町村への気象解説】

- 5日13時32分から6日13時50分にかけて、以下の市町村に気象台から電話連絡
朝倉市(5)、小郡市(3)、大刀洗町(6)、東峰村(3:6日は電話不通)、筑前町(4)、久留米市(4)、嘉麻市(4)、添田町(4)、築上町(2)、上毛町(2)、豊前市(2)、筑紫野市(2)、みやこ町(2)、川崎町(2)、うきは市(3)、八女市(2)

(括弧内は電話連絡回数。下線を付した市町村に対しては首長ホットラインも実施。以下同。)

- これ以外にも、気象の見通し等に関する県内市町村からの問い合わせに随時対応

大分地方気象台の対応

【予報官コメント】

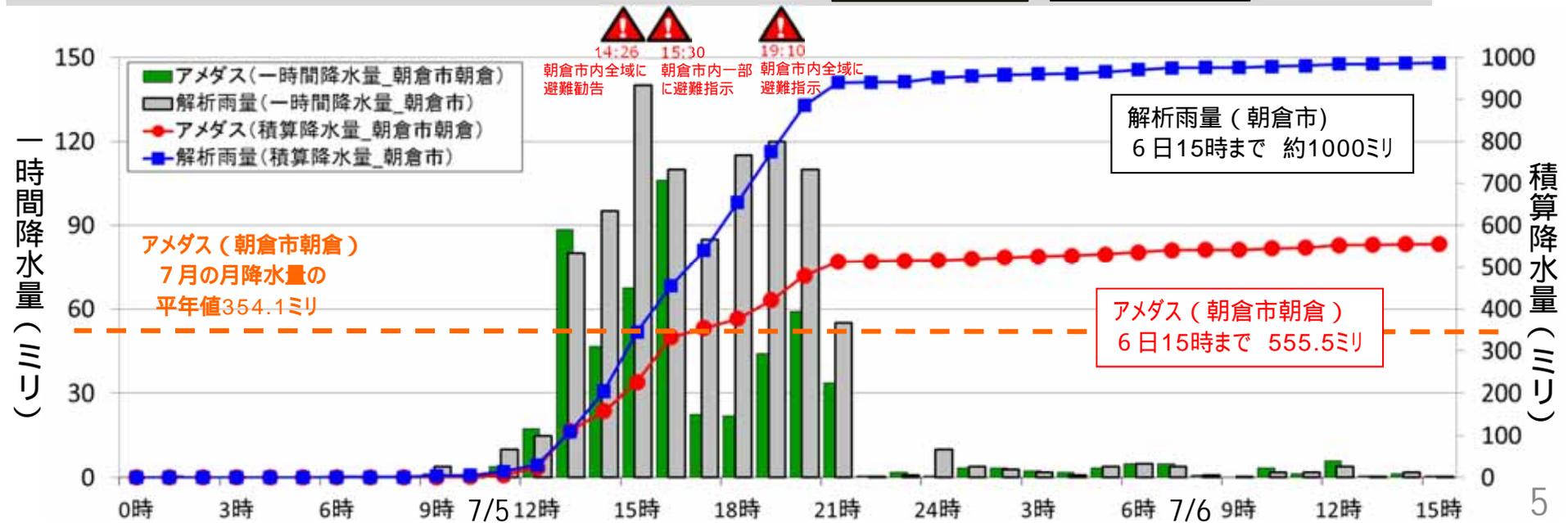
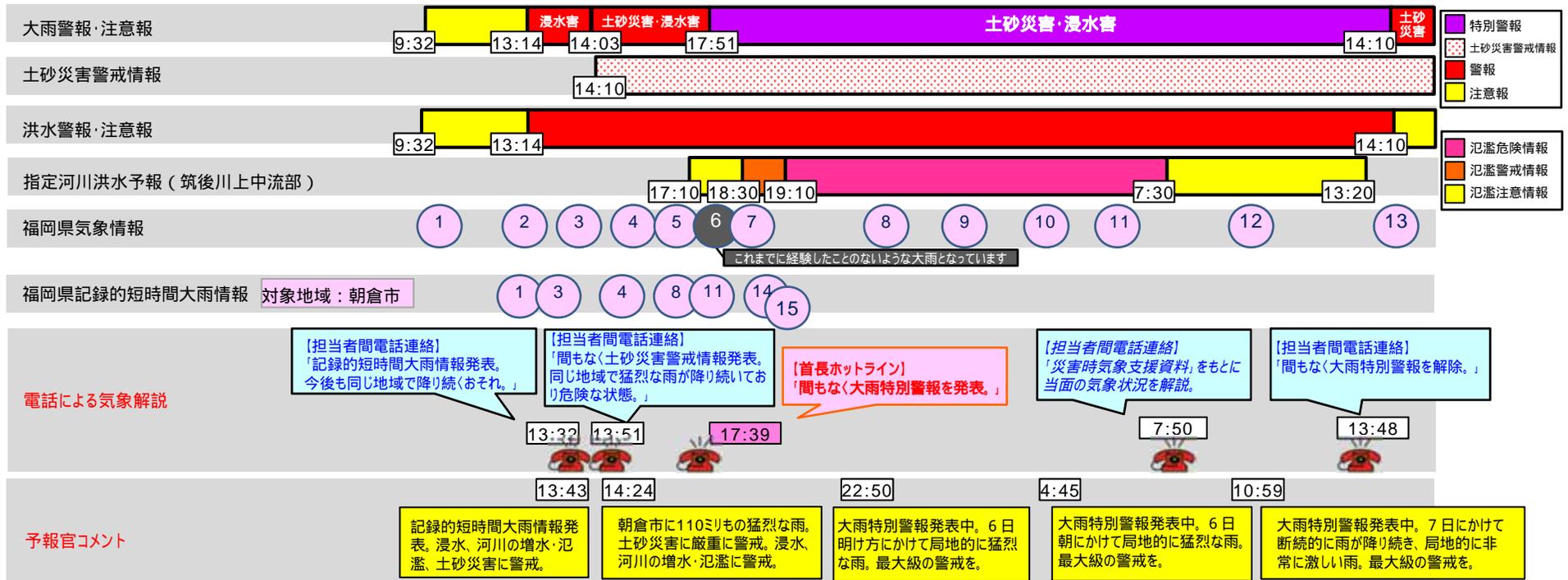
- 7月5日～6日に計20回発信、防災気象情報の発表状況・見込みや今後の気象の見通し等を解説

【市町村への気象解説】

- 5日15時13分から6日14時9分にかけて、以下の市町村に気象台から電話連絡
中津市(4)、日田市(4)、大分市(2)、別府市(2)、臼杵市(2)、津久見市(2)、杵築市(2)、由布市(2)、豊後高田市(2)、宇佐市(2)、九重町(2)、玖珠町(2)、竹田市(2)、佐伯市(2)、豊後大野市(2)

- これ以外にも、気象の見通し等に関する県内市町村からの問い合わせに随時対応

福岡県朝倉市を対象とした情報発表及び気象解説実施状況（5日0時～6日15時まで）



大雨発生後の自治体支援状況

搜索救助活動、復旧活動等を支援するため、被災自治体等に対して職員を派遣し、詳細な気象解説等を実施。

気象庁ホームページに上記大雨の専用ポータルサイトを開設(7/7~)。

被災市町村を対象とした気象予測支援資料を作成・提供。

【被災自治体への職員派遣】

